

★神戸の集いから

□広瀬安美「兵庫の民家」
出版記念会を開く

民家に惚れて全国を十数年さまよい歩き朝日新聞兵庫版に三年十カ月にわたって亡びゆく民家を描き続けた広瀬安美氏の労作が、「兵庫の民家」として出版され、十月九日兵庫県民会館十一階で出版記念会が開かれた。詩人の竹中郁、宮田神戸市企画局長、小池須磨寺管長、重森、安倍、永尾朝日新聞神戸支局三代支局長に、福田宮司、春木一



右はしは広瀬安美さん

□K・F・Sの
ファッションパーティ



ファッションナブルにゲストを囲んで

神戸ファッション市民大学一期生で構成されるK・F・S（神戸ファッションソサエティ）の第一回秋のファッションパーティが、セントジョージ・ジャパンで九月二十日親睦委員会的主催で開かれた。当日はファッション市民大学に講師として来神中の久田尚子（装苑チーフエディター）、菊地武雄、コシノジュンコ、松田光弘などデザイナーをゲストに、二期生や、一般の人々にも呼びかけられて、一二〇名近い人々が集って交流会が催された。

□創業20周年のウインザー
記念のパーティ

さんブラザのオートクチュール「ウインザー」（山田六郎社長・富抄子）は、

このほど20周年を迎え、九月二十八日（土）オリエンタルホテル大宴会場で盛大に約二五〇名の人々が集って記念パーティが開かれた。宮崎神戸市長、狩野助役、兵庫県の佐谷弘県民室長、小川弘商工課長、デザイナーの菊地武夫、松田光弘さんも出席。伴先生のスペイン舞踊のアトラクションもある豪華な催だった。



盛況だった会場に宮崎市長も迎えて



菊地武夫さんから花束を受ける山田夫妻



☆新しい関西を創造する総合雑誌
オール関西
（11月号予告）



☆グラビア

「女の四季」 菊原初子
「万葉記」 ②犬養孝

☆連載対談

友井唯起子／柴田 仁

☆ルポ

消えゆく路面電車

☆現代の企業経営者群像

☆うまいもん・甘辛ガイド

☆「織田作之助伝」 ③大谷晃一

☆「大阪ものがたり」 ⑮石濱恒夫

☆「タぐれに薔を植えて」 ⑭足立巻一／え・津高和一

☆「現代と伝統」 ⑪吉田光邦

☆アラブ大使の声 ⑪林 辰彦

月刊オール関西編集部

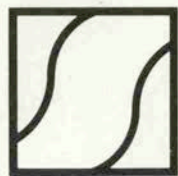
大阪市北区梅ヶ枝町八〇

梅新東ビル七階

TEL 06-361-2471（代）

la boutique charmante

セリザワ



serizawa

本店＝神戸市生田区三宮町 3-18

WINTER IN SERIZAWA
いま、あなたのエレガンスを

シャネルの光にほれる宵 本物だ、大切にしたいセリザワの逸品
あなな、神を来え、人々を魅惑するでしはう



元町バザー旅シリーズ

Italy



ネクタイの

元町バザー

神戸元町1番街 TEL 331-7031

東京 東急百貨店

渋谷本店/日本橋店/吉祥寺店

イクリー 416 Siena

本格派の人々に愛されるヨシオカの靴



★靴のオーダーメイド

ヨシオカ

神戸大丸前 TEL 331-5190

東急渋谷 TEL (03) 477-3436

東急日本橋 TEL (03) 221-0511

東急吉祥寺 TEL (0422) 21-5369

バルコ池袋 TEL (03) 987-0577



戸景 神百

61

カメラ

小山 保

北野町

坂本勝比古

〈神戸市教委社会教育部文化課主幹〉

北野町界わいには、古い神戸の面影が其処ここに遺っている。

風雪を経た異人館のたたずまいや、赤煉瓦積みみの堀年輪を重ねた庭木のみどりが、このあたりの都市空間をゆたかにしている。

しかしその異人館も年ごとに姿を消し、かわりに新しいマンションや、建売り住宅ががつぎつぎと建てられている。都市発展のプロセスとして止むを得ない現象であるといってしまうは、それまでであるが……。

近代都市神戸の個性ある発展を印象づける得がたい遺産として、大切に考えていきたいものである。

神戸大学

小倉宗夫

〈小倉産業樹社長〉

阪急六甲駅から一氣に歩いて、たっぷり二十分、晩秋の淡い日ざしに体がしっとりと汗ばむ。正門からの急な石段の彼方、やや黄ばんだ楠木の大樹の間に渋い色の神大本舎がその姿を現わす。かつては見馴れた眺めである。だがこの威圧感は何から来るのだろうか。それは矢張りこの学府の持つ七十年の歴史、その伝統の重みであろうか。

神戸高等商業学校、神戸

商科大学、神戸経済大学、

そして神戸大学への道を手

込んだこの大学、それは我が

国学制の歴史そのものである

。今や学園周囲に昔日の

面影はない。高層住宅が林

立し、自動車縦横に疾走

する。だが校内は不思議に

静かだ。風にそよぐイチヨ

ウの梢、その間から望まれ

る六甲の山なみ、それ等は

昔変わらぬまなざしを以て

この学府に

巣立つ若者

達を見守つ

神戸
戸景

摩耶阜頭

なかけんじ

（詩誌「輪」同人）

三宮方面から税関前・第六突堤をへて この阜頭の中央で下車すると 人気がない広場に豊かな色彩のコンテナ群が整然と配列され停泊中の外国船から華奢な体軀の褐色の船員が 淋しい風景を見下している。さすが大神戸港も東端という感じであるが 沖には防波堤やポートアイランドも見え 港の一環としてさしたる異和感もない。しかし背後をふりかえると そこはもう摩耶山からつづく神戸東部の沖合いなのだ。背山から見る摩耶阜頭は ヤジロベエ橋によって画然と港の首都から切り離され あの実堤の先端に立ったとき 胸にせまる茫茫の想いが

戸景 神百

63

ゆえなきも
のではない
ことを証明
している。





須磨水族館

春川和子

〈ラジオ関西プロデューサー〉

ガラスの
水槽の中の

戸景 神百

64

魚には、奇妙な親近感がある。

ラジオ番組の制作という「密室芸能」に従事しているせいであろうか。

カラフルでサイケなスーツのモンガラハギや、そろいのゆかたでひとおどりといたしたシマダイの群、そんな魚たちをみると、小学生のすさまじい喚声につつまれながらも、なぜか私の心は和むのである。

水族館には、なんだってダチョウをかうんだい、といったシラケた気分が稀薄なものもい。

蓬 来 峡

津田周二

（日本山岳会評議員）

年少の頃
には好んで

六甲の谷々

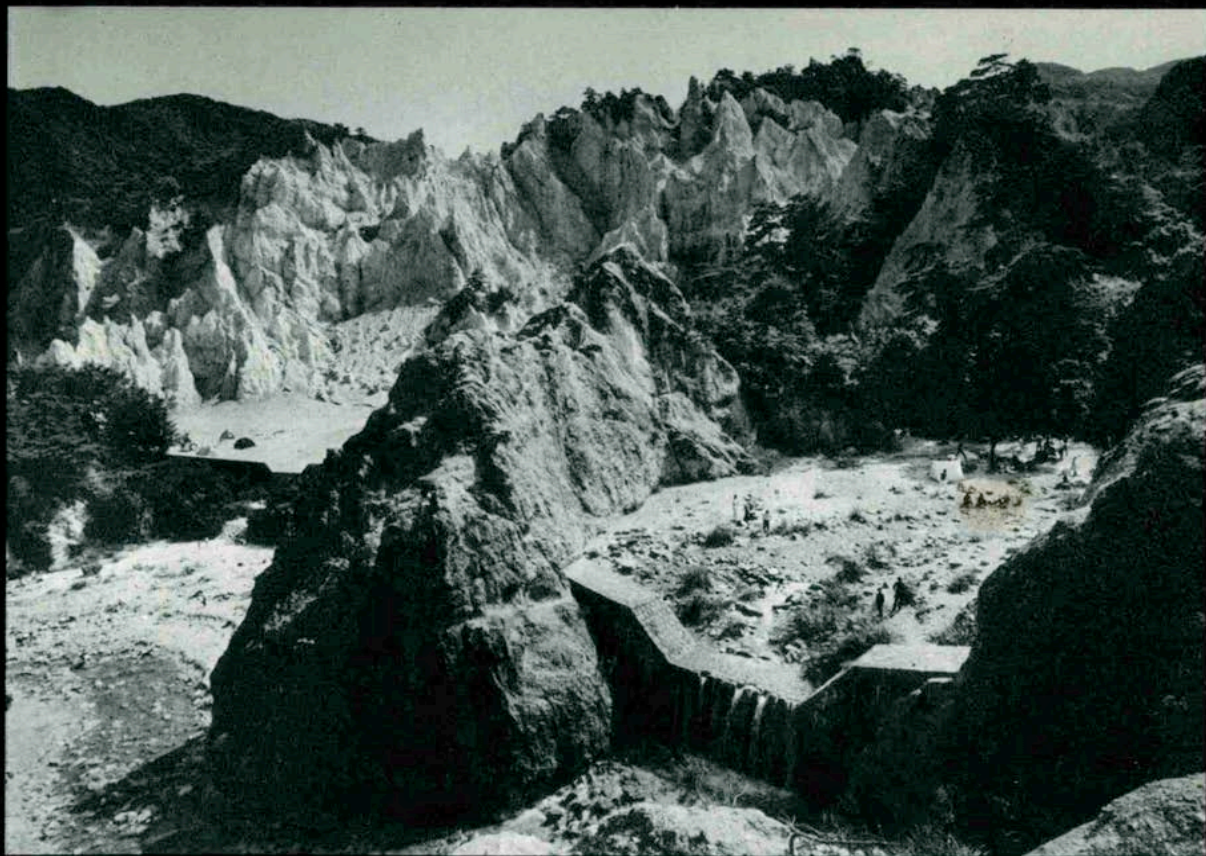
をあさり、

六甲は表も

裏も、殆ど歩かないところ
はない程に登った。裏六甲
中の荒谷で最も大きな谷で
ある座頭谷には幾度となく
登りつめたのだった。

この座頭谷の入口の西側
一帯をいつの頃よりか蓬来
峡と名づけたものらしい。
昭和の初期頃からの名称で
はないかと思う。古い地図
にはどうも蓬来峡の名は見
つからない。しかしこの座
頭谷入口の面影に露出され
ている峨峨たる荒山の風貌
は蓬来の名にふさわしく、
しかも近年、この付近の荒
荒しい山容が時代劇映画に
合うのか、度々ロケに使わ
れたり、また若い人達の手
近なロッククライミングの
遊び場に、ピクニックに、
盛んに利用されるようにな
り、恰好のハイキングの場
として、一躍蓬来峡の名が
有名になったようだ。

戸景
神百
65





須磨浦の月

畑マス子

〈日本現代工芸美術会友〉

戸景
神百

66

名月のよる、月見る月は
この月の月などとおつばやき
ながらそうつと我が家の窓
を開けてみる。さすが美し
い！ 中天に浮かぶ冴えた
月遠くきらめく海、その中
に灯をともした客船がいく
つか停止したように浮かぶ
そして山の方は暗いが月の
光を浴びて何かを語りかけ
る。海と山と月、疲れた心
をどんなにか慰めてくれる
ことか。かつては一の谷の
合戦の歴史の地、今では公
害多く名残り少くなつた白
砂青松の浜も、洪滞勝ちの
二号線も今宵ばかりはすっ
ぱりと包んで月の光は昔も
今も変わらず黙って静止す
る。

「こんなよい月を一人で
見て寝る」と須磨寺の石碑
にあるが、なる程と私をう
なづかせる。